

デジタル・ディバイド解消戦略会議（第5回）議事要旨（案）

1 日時：平成20年6月20日（金）15：00～16：30

2 場所：総務省地下2階講堂

3 出席者：

（1）構成員（五十音順、敬称略）

植木 順、浮田 豊明、金田 英郎、川島 宏一、木戸 英晶、黒川 和美、佐野 輝利、島村 秀世、高橋 伸子、高畑 文雄、田村 澄夫、多山 洋文、佃 英幸、富樫 敦、徳広 清志、長尾 毅、西尾 彰夫（代理：山本 敬三）、平澤 弘樹、藤尾 善一（代理：門脇 和裕）、二木 治成、町田 幸一（代理：三宅 祥寿）、松下 邦彦、三友 仁志、八嶋 弘幸、山田 裕章（代理：平田 浩和）、吉室 誠、若尾 正義、

（2）総務省

増田総務大臣、鈴木総務審議官、寺崎総合通信基盤局長、武内電気通信事業部長、田中電波部長、谷脇事業政策課長、本間事業政策課調査官、平野高度通信網振興課長、岡本高度通信網推進官、佐々木基幹通信課長、渡辺移動通信課長、藤島地域放送課長

4 議題：

（1）デジタル・ディバイド戦略解消会議 報告書（案）について

（2）その他

5. 議事要旨

【報告書（案）について】

事務局から、資料5-1「デジタル・ディバイド解消戦略会議報告書（案）」、資料5-2「デジタル・ディバイド解消戦略会議報告書（案）概要」に基づき説明。構成員からの主な意見等は以下のとおり。

- ・携帯電話のエリア整備について、目標年度を1年前倒しで達成できたのは評価できる。
- ・今後、フォローアップ体制の中で地方に対するヒアリング等により、地域に応じた対応策の検討等も実施してほしい。（単に金銭的なことだけではなく、ニーズの面からも、地域の取組がより進むような支援等）
- ・国道や一級河川に敷設してある国土交通省が管理している光ファイバをデジタル・ディバイド対策に利用できるよう、総務省と連携を強めて頂ければ、携帯エリアやブロードバンド・ゼロを解決する有効な手段になるのでは。
- ・ハードとアプリケーションの一体的推進を期待。
- ・CATV事業者の相互連携により、広域的なブロードバンド整備の推進を図っていきたい。
- ・衛星ブロードバンドについては、最後の手段として位置づけられるということが、本会議を通じて衛星の利用価値を高めることにつながってよかった。

- ・ 報告書（案）で「合わせ技プロジェクト」については、事業者間の調整が重要になってくるので、今後は、それぞれの地域のローカルな「知恵」で大きな戦略に基づく戦術を考えていく、「知恵の合わせ技」が必要。
- ・ ブロードバンドへのニーズがそもそもないところまで整備を推進するかどうかについては、議論する必要がある。
- ・ 事業者も、国からの補助がないとやらないという態度ではなく、本報告書（案）での提案を参考にし、整備コストを削減する努力が必要ではないか。
- ・ 報告書で提案された施策の進捗状況を確認するフォローアップの場を設けて欲しい。

※本報告書（案）については、全会一致で承認された。なお、細かい修正等があった場合の扱いについては、座長に一任の上、6月24日に公表することとなった。

以上